

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【田島中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	基本的な知識・技能の習得状況が、二極化している状況は変わらずだが、基本的な内容の学習場面を積極的に作り出すことによって、学校全体としての学習意欲は少しずつ向上している。	
思考・判断・表現	記述問題における無解答率の割合が高く、まだまだ改善する必要があると考える。また、ICT機器を活用した発表や話し合い活動を充実させた結果、自分の考えを共有しあうことに苦手意識をもっている生徒も積極的に意見を言うようになってきた。授業における言語活動の場は増えてきたものの、教科や指導者によってまだまだ生徒主体となる授業にばらつきがある。学校全体で情報共有を積極的にし、全体的なレベルアップを図りたい。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 基本的な知識・技能の習得状況が、二極化している。 <指導上の課題> 基本的な知識・技能の活用を図る学習活動を設定しにくい。	⇒ 習得した概念や法則などの知識を活用し、自分なりの考察を加えてまとめた考えを表現する場面を設定する。【R6市学習状況調査における「授業で学んだことをほかの学習で生かしていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合75%以上】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 記述問題における無解答率の割合が高い。また、話し合い活動において、自分の考えを共有しあうことに苦手意識をもっている。 <指導上の課題> 生徒主体となる授業にばらつきがある。	⇒ 課題について意見交換や事実の追求などの、課題解決に向けて学びを深めていく中で、互いの理解を共有し、認め合う場を設定する。【R6市学習状況調査における「授業で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていると思いますか」の質問項目において肯定的な回答の割合75%以上】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	授業の始めに漢字練習やドリル学習を取り入れることによって、基本的な内容の学習に前向きな生徒が増えてきた。また、毎週小テストを行うことで、達成感を味わうことができている。定期的に朝学習の時間を採用することで、基本的な学習になかなか取り組むことができなかった生徒も、学習の習慣が定着してきている。
思考・判断・表現	B	日々の授業の中で、発問の仕方や内容を工夫することで、それに対する理解が少しずつ深まってきた。しかし、文章や情報を読み取り、それに対して自分の意見を述べたり、要約したりすることにはまだまだ課題がみられる。まずは書かれていることを正確に読み取り、それに対する適切な回答の仕方を心がける必要があると考える。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、表現の技法について理解しているかを問う問題に課題がみられた。授業において短文や俳句を鑑賞したり、創作したりする活動を行うことで、日本独自の文化への関心を広げていきたい。	
思考・判断・表現	国語では、必要な情報に着目し要約する、また、工夫した表現の効果を説明する問題に課題がみられた。解答類型を見てみると、出題の意図を理解して解答できなかった生徒が多かったことがわかる。また、無解答の割合も多く、記述式の問題に対して消極的な様子が見られる。授業内で自分の考えをまとめたり、文章を要約する内容を充実させていく必要がある。逆に、話し合いの中での発言に関する質問は正答率が高く、授業中での伝え合う活動の充実が感じられる。数学では、データを読み取り数学的な表現を用いて説明する問題に課題がみられた。特に無解答率が高く、国語と同様に記述式の問題に対しての消極的な様子が見られた。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、特に「主語と述語」を捉える問題や「自分の考えを伝えるための」問題に課題がみられた。解答類型を見てみると、述語についての理解はできているが、文の成分に対する理解が不十分であり、日常の中でも特に意識せず言葉を使用していると考えられる。また、R6年度さいたま市学習状況調査「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。」における肯定的な回答の割合は85%であった。子ども主体の学びとなるような授業を今後も継続していく。	
思考・判断・表現	数学の「ヒストグラムから必要な情報を読み取る」問題において課題がみられた。正答率の低さも課題であるが、それ以上に無解答率の高さが目立つ。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」における、肯定的な回答の割合は90%を越えており、共同作業等、協働的な学びの機会の確保をしながら、「なぜそうなるのか」を考えた説明したりする活動をよりいっそう重視したい。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	授業の始めに漢字練習やドリル学習を取り入れることによって、基本的な内容の習熟に取り組んでいる。また、毎週小テストを行うことで、達成感を味わうことができている。基本的な学習になかなか取り組むことができなかった生徒も、学習の習慣が定着してきている。	変更なし
思考・判断・表現	C	話し合い活動において課題解決に向けての学習を進めていく中で、互いの理解を共有したり、認め合うことができているようになってきた。だが、文章や情報を読み取り、それに対して自分の意見を述べたり、要約したりすることには課題がある。まずは書かれていることを正確に読み取る力を育成する必要があると考える。	日々の授業において、発問に対する理解を深める工夫をすること。また、要点をおさえて自分の意見を文章にまとめる活動を各教科で取り入れ、経験を積んでいく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)